



取締役頭取

## 大城勇夫

# GREETING

ごあいさつ

皆さまには、平素より、琉球銀行をご利用、お引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。

今年も、多くの皆さまに琉球銀行をより一層理解していただくために、「琉球銀行の現状」(2009年版ディスクロージャー誌)を作成しました。

平成20年度の国内経済は、米国発の金融危機が世界中に波及し、20年9月のリーマンショック後に世界経済が実体面において急激に減速しました。自動車・電機産業等における輸出の減少に伴う生産の落ち込みや企業収益の悪化に伴う設備投資の減少、雇用・所得環境の悪化に伴う個人消費の低迷などを受け、内外需とも急速に悪化しました。

県経済は、改正建築基準法の影響の反動から建設関連の一部に持ち直しの動きが見られましたが、全体としては足踏み状態が続きました。

このような環境のもと、琉球銀行は「成長戦略を支える収益体質の強化」を年度の経営目標に掲げ、質・量の充実を図りながら、中期経営計画「CHALLENGE 51」に沿って、中小企業向けローン、預金、預かり資産販売、営業チャネルの拡大、新金融サービスなどに取り組んでまいりました。

平成21年度については、経営目標に「公的資金の完済を目指した利益確保と収益基盤の強化」を掲げました。足元の安定した収益の確保を前提に、将来の基盤拡大に向けた営業体制の見直し、魅力ある商品開発の強化、経営改善のための提案力の向上等により取引先数の増加を図りつつ、中期経営計画の仕上げに取り組んでまいります。

琉球銀行は引き続き、金融環境の変化やお客様のニーズを的確に捉え、成長を続けながら、沖縄経済の発展に貢献できる「沖縄になくてはならない銀行」としてお客様から高い信頼、支持をいただけるよう努めてまいります。

平成21年7月